

第1課 7の70倍

教室の入り口で生徒たちを迎えます。どんな1週間だったか(嬉しかったことや困ったことなど)を尋ねましょう。

「お話の前に」を始めます。

クラスの状況に応じてAかBのどちらかを選んでください。

祈りと讃美は「はじめよう」のあとの、プログラムのどこに取り入れてもかまいません。

A

マカロニをつなげよう

準備: 未調理のマカロニをボウル一杯、

毛糸を切ったものを70本、ししゅう針かセロテープ

◎ 活動

- ・もしししゅう針がなければ、毛糸の端にセロテープを巻きつけ、ほどけないようにします。
- ・生徒たちは、毛糸1本につき7つのマカロニを通していきます。
- ・毛糸が全部で70本あることを伝え、5分ほどこの活動をします(70本すべてが完成しなくてもかまいません)。

◎ 話し合しましょう

- ・「マカロニをたくさんつける作業は楽しかったですか。」(面白かった。最高だった。飽きてきた)
- ・「何本できましたか。」マカロニを通した毛糸の数を数えます。そして、7に子どもたちの通した毛糸の数をかけて、いくつマカロニを通したか伝えます。
- ・「なぜ70本できなかったのでしょうか。」(飽きてきたから。時間がかかりすぎるから)
- ・マタイ18:22を声に出して読みます。
- ・「神さまは私たちに、7の70倍も許すようにと言っておられます。とても多い数ですね。神さまは私たちが許すことに飽きることはあるでしょうか。このことは私たちに、お互いに許しあうことについてどんなことを教えていますか。」

メッセージを一緒に言いましょ

神さまは、他の人を

心から許すように望んでおられます。

B F = FIGHTING 準備: 黒板とチョーク または 大きな紙とマーカー

◎ 活動

- ・「FORGIVE(「許す」という意味)」という言葉を使った折句をつくります。全員から見えるところに「FORGIVE」と縦に書いてください。
- ・それから子どもたちに、「F」「O」「R」「G」「I」「V」「E」で始まる言葉で、許しが必要なものを考えて、黒板の文字につなげて書くように言います。(例:「F」は「FIGHTING(けんか)」など)

◎ 話し合いましょう

- ・「私たちが許してもらわなければならないことはどれくらいありますか。」
- ・「許してもらわなければならないことはあるでしょうか。」
- ・エフェソ4:32を声に出して読みます。
- ・「神さまは、私たちが許すのをやめることはあるでしょうか。」
- ・「そのことは私たちに、周りの人への許しについて何を教えてくれますか。それについてどう思いますか。」
- ・「『憐れみ』とはどういう意味でしょう(愛すること)。」

メッセージを一緒に言いましょ

神さまは、他の人を

心から許すように望んでおられます。

◎ お祈りと賛美(随時)

◎ 交わりの時間

- ・部屋の入り口で生徒たちに聞いた、嬉しかったことや困ったことを(適宜)みんなに話します。生徒たちは、先週の学びを生活の中でどのように体験したかを話します。
- ・お誕生日や特別な出来事、何かをやった成果などを発表します。
- ・ビジターのお友だち全員を温かく歓迎しましょう。

◎ 伝道地便り

- ・子どものための伝道地便りを読みます。
- ・お話の中のどこに「許し」と「憐れみ」が出てきたか、子どもたちがわかるようにしてあげてください。

◎ 献金

- ・子どもたちに、私たちは献金を持ってこることで憐れみの心を表せること、そしてその献金のおかげで、私たちの会ったこともない人たちが神さまについて学べるということを伝えてください。

◎ お祈り

- ・子どもたちに、最近誰かにされたり言われたりした嫌なことを考えさせます。そして、神さまは周りの人を許すように望んでおられることを思い出させます。
- ・各自が静かに祈る時間を取ります。
- ・最後に、みんなが心から周りの人を許すことができるよう助けてください、と祈って終わります。

第2課 ぶどう園でのしはらい日

教室の入り口で生徒たちを迎えます。どんな1週間だったか(嬉しかったことや困ったことなど)を尋ねましょう。

「お話の前に」を始めます。

クラスの状況に応じてAかBのどちらかを選んでください。

祈りと讃美は「はじめよう」のあとの、プログラムのどこに取り入れてもかまいません。

A

重要な人って？

準備：古雑誌、人数分のはさみ、のり、テープ、工作用紙

◎ 活動

- ・子どもたちは、古雑誌から人の写真を5つずつ切り抜きます。できるだけ色々な人(ホームレス、子ども、老人、専門家、有名人、など)の写真を選び、工夫して切り抜くように言います。
- ・切り抜き終わった雑誌は床に置いておきます。
- ・切り抜いた写真を1枚ずつ工作用紙に貼りつけ、壁かドアにテープで留めます。
- ・あなたは、生徒と相談しながら、写真をその人の重要度の順に並べます。

◎ 話し合しましょう

- ・「みんなは、自分が写っている写真をこの中のどこに置きますか。」
- ・「誰が重要で誰がそうでないか、どうやって決めましたか。」
- ・使徒言行録10:34を読みます。
- ・「神さまは、だれかを、重要であるとか、他の人より価値があるといって区別なさるでしょうか。」
- ・「神さまならこの切り抜きをどう並べるでしょう。」

メッセージを一緒に言いましょう

神さまは、他の人を大切にするように望んでおられます。

B

整列！

準備：シール、花、鉛筆といった小さなプレゼント、聖書

◎ 活動

- ・生徒たちに、プレゼントをあげるので並ぶように言います。
- ・列の先頭の位置を示して、生徒たちが先頭になるために争いだしたらそうさせておきます。
- ・整列できたら、列の後ろの生徒から順番に小さなプレゼント(シール、花、鉛筆、など)を渡します。

◎ 話し合しましょう

- ・「列の最後の人が最初にプレゼントをもらったとき、どう思いましたか。」
- ・マタイ20:16を読みます。
- ・「これはどういう意味でしょう。私たちが『先』だと思うのはどんな人たちですか。」(一番顔のいい人、一番金持ちの人、一番頭のいい人、など)
- ・「私たちが『後』だと思うのはどんな人たちですか。」(魅力のない人、貧乏な人、ぶきっちょな人や頭の良くない人、など)
- ・「この聖句は私たちに、周りの人にどうやって接するように教えていますか。」

メッセージを一緒に言ひましょう

神さまは、他の人を大切にするように望んでおられます。

◎ お祈りと賛美(随時)

◎ 交わりの時間

- ・部屋の入り口で生徒たちに聞いた、嬉しかったことや困ったことを(適宜)みんなに話します。生徒たちは、先週の学びを生活の中でどのように体験したかを話します。
- ・お誕生日や特別な出来事、何かをやった成果などを発表します。
- ・ビジターのお友だち全員を温かく歓迎し、一人ひとりの名前を紹介しましょう。

◎ 伝道地便り

- ・子どものための伝道地便りを読みます。
- ・だれかが自分にふさわしい以上の物を受け取ったり、だれかにその人にふさわしい以上の物を与えたりした場面を特に取り上げてください。

◎ 献金 準備:農家の人のかぶる帽子

- ・農家の人の帽子を使って献金を集めます。
- ・子どもたちに、私たちの物質的な必要は神さまが満たして下さることを思い出させてください。
- ・神さまが私たちに値以上のことをしてくださっているこの愛を、私たちはお金を捧げることで周りの人に表し、神さまを伝えます。

◎ お祈り

- ・子どもたちに、自分の好きではない人について考えさせます。そして、その人のために静かに祈り、その人を大切にできるように神さまにお願いします。
- ・各自が静かに祈る時間を取ります。
- ・最後に、私たちが値以上に愛して下さることを神さまに感謝して終わります。

第3課 仲間はずれにされている人を愛する

教室の入り口で生徒たちを迎えます。どんな1週間だったか(嬉しかったことや困ったことなど)を尋ねましょう。

「お話の前に」を始めます。

クラスの状況に応じてAかBのどちらかを選んでください。

祈りと讃美は「はじめよう」のあとの、プログラムのどこに取り入れてもかまいません。

A 仲間はずれ

◎ 活動

- ・5人以上のグループをつくります。
- ・それぞれのグループから1人を選び、それ以外の子どもたちに、誰にも入り込めないような小さな輪をつくるよう指示します。
- ・それから、外にいる子どもに、中に入ろうとしてもらいます。輪になっている子どもたちには、その子を入れないように言います。
- ・2分したら、外にいる子を交代させます。
- ・全員が輪の外と中の両方を経験したら、活動を終了します。

◎ 話し合しましょう

- ・「輪の外にいたとき、どんな気持ちになりましたか。」(イヤだった。混乱した。悲しかった。一人ぼちな気持ちになった)
- ・「輪の中にいたときは、外の人についてどう思いましたか。」(入れてあげたくなかった。入れてあげたかった。何も考えなかった)
- ・「グループや活動から仲間はずれになったことはありますか。そのときどうしましたか。」
- ・「仲間はずれになっている人がいたら、何をしてあげられますか。」(こっちにおいでと言ってあげる。仲間に入れてあげる。一緒にやろうと言ってあげる)
- ・「今日のメッセージを一緒に言いましょう。」

メッセージを一緒に言いましょう

神さまは、仲間はずれにされている人と

仲良くするように望んでおられます。

B 何の香りかな？ 準備：小さな瓶、綿、香りのするもの

(例：花びら、香水、バニラエッセンス、シナモン、クローブ、レモン汁、オレンジジュース、チョコレート)

◎ 活動

- ・ベビーフード用などの小さな瓶を用意して、綿を入れます。
- ・それぞれの瓶に、香りのするものを入れます(リストを参考にしてください)。
- ・その上にまた綿を入れて、生徒たちになんか見えないようにします(または、生徒たちに目をつぶらせて、鼻の下に瓶を持っていきます)。
- ・いくつ香りを当てることができるでしょう。

◎ 話し合しましょう

- ・「香りはなぜ大切ですか。」(食べ物を食べるときに役立つ。周りで何が起きているかを知る手がかりになる。いい香りがかぐと気持ちがよくなる)
- ・「今日のお話には、とても高い香水を使って、大切なことをした女の人が出てきます。」

メッセージを一緒に言いましょう

神さまは、仲間はずれにされている人と

仲良くするように望んでおられます。

◎ お祈りと賛美(随時)

◎ 交わりの時間

- ・部屋の入り口で生徒たちに聞いた、嬉しかったことや困ったことを(適宜)みんなに話します。生徒たちは、先週の学びを生活の中でどのように体験したかを話します。
- ・お誕生日や特別な出来事、何かをやった成果などを発表します。
- ・ビジターのお友だち全員を温かく歓迎し、一人ひとりの名前を紹介しましょう。

◎ 伝道地便り

- ・子どものための伝道地便りか、その他の手に入る物語を読みます。

◎ 献金

- ・花瓶か、きれいな器で献金を集めます。

◎ お祈り

- ・子どもたちは、尊敬の気持ちを表したい相手を1人選びます。そしてあなたが、みんなが周りの人

に愛と尊敬の気持ちをもって接することができるようにとお祈りする間、子どもたちはその人のことを考えます。

第4課 イエスさまが泣かれた日

教室の入り口で生徒たちを迎えます。どんな1週間だったか(嬉しかったことや困ったことなど)を尋ねましょう。

「お話の前に」を始めます。

クラスの状況に応じてAかBのどちらかを選んでください。

祈りと讃美は「はじめよう」のあとの、プログラムのどこに取り入れてもかまいません。



お誕生日の祝い方

準備: 調理済みの麺、小さなまくら、

プレッツェルやクラッカーなどのスナック、パーティー帽子、人数分の皿

◎ 活動

- ・世界中でお誕生日がどのように祝われているかをデモンストレーションします。
- ・調理済みの麺を入れたボウルを持ってきて、子どもたちに麺を1本ずつ配ります。・「中国では、お誕生日に、長生きを願って長い麺を食べます。」
- ・1人に小さな枕を渡して、床に寝転がって眠ったふりをするように言います。ほかの子どもたちはその周りに集まり、「ハッピーバースデー」を歌ってその子を「起こし」ます。「メキシコでは、お誕生日の人は特別なお誕生日の歌を歌ってもらって目覚めます。」
- ・別の子に枕を渡して、その子にも眠ったふりをしてもらいます。他の子どもたちはその子を「起こし」て、プレッツェルやクラッカーなどのスナックを口に入れてあげます。「スウェーデンでは、お友だちがお誕生日の人を朝早く起こして、たくさんの食べ物を食べさせます。」
- ・パーティー帽子とお皿を全員に配ります。スナックを少しずつ配ります。「アメリカでは、パーティーを開いてお友だちを招待するのが一般的です。」

◎ 話し合しましょう

- ・「お誕生日のお祝いと、互いに重荷を担うこととはどういう関係があるでしょうか。」
- ・ローマ12:15を声に出して読みます。
- ・「家族の一員であるということは、良いときも悪いときもいっしょにいるということです。そして、私たちは神さまの家族の一員です。神さまの家族の一員でいるというのはどんな気持ちですか。」
- ・「今日のメッセージを一緒に言いましょう。」

メッセージを一緒に言いましょう

神さまは、思いやりを示すように望んでおられます。

B 友だちの輪

◎ 活動

- ・子どもたちは小さな輪をつくって座ります(大人数のクラスでは、子どもたちを6-8人ほどのグループに分けてください)。
- ・先生から順番に、自分の右側にいる人の好きなところを言っていきます。子どもが何か言うたびに、先生はそれに一言付け加えましょう。
- ・そうすると、みんなが励ましの言葉を2つずつもらえることになります。
- ・もし言いたくないという子どもがいたら、アシスタントが他の人を指名するか、自分で何か言ってあげて、何も言ってもらえなかった子どもがいないようにします。

◎ 話し合しましょう

- ・「誰かに良いことを言われたらどんな気持ちになりますか。」(いい気持ちになる。嬉しくなる。など)
- ・ヘブライ3:13下句を読みます。
- ・「この聖句は、私たちはお互いにどうするべきだと教えていますか。」(毎日お互いに励ましあうべき)
- ・メッセージを一緒に言います。

メッセージを一緒に言いましょう

神さまは、思いやりを示すように望んでおられます。

◎ お祈りと賛美(随時)

◎ 交わりの時間

- ・部屋の入り口で生徒たちに聞いた、嬉しかったことや困ったことを(適宜)みんなに話します。生徒たちは、先週の学びを生活の中でどのように体験したかを話します。
- ・お誕生日や特別な出来事、何かをやった成果などを発表します。
- ・ビジターのお友だち全員を温かく歓迎し、一人ひとりの名前を紹介しましょう。

◎ 伝道地便り

- ・子どものための伝道地便りか、その他の手に入る物語を読みます。
- ・お話のどこに「思いやり」が出てきたか、生徒に聞いてみましょう。

◎ 献金 準備:大きなハンカチを巻きつけたバスケット

- ・ハンカチを巻きつけたバスケットで献金を集めます。このハンカチは涙をぬぐう行為を象徴しています。
- ・私たちは、献金を捧げて周りの人に神さまを伝えることで、思いやりの心を表しているのです。

◎ お祈り

- ・ポップコーン式お祈りをします。
- ・子どもたちは輪になり、目をつぶって、助けを必要としている人の名前を言います。これをポップコーンがはじけるときのように、いつでもどこからでも言っていいことにします。
- ・また、自分の祈りの課題もポップコーン式で言ってもらいます。
- ・最後に、教師が、自分たちの世話をしてくれる人たちを感謝し、私たちが必要としている人たちを助けることができるようにと祈って終わります。

第5課 雲の道案内

教室の入り口で生徒たちを迎えます。どんな1週間だったか(嬉しかったことや困ったことなど)を尋ねましょう。

「お話の前に」を始めます。

クラスの状況に応じてAかBのどちらかを選んでください。

祈りと讃美は「はじめよう」のあとの、プログラムのどこに取り入れてもかまいません。

A

ロープをたどれ!

準備: 長いロープ、椅子とテーブル、スナックや果物などのご褒美

◎ 活動

- ・あらかじめ、床に置いたロープで椅子やテーブルを囲み、できたら教室の外にまで這わせていきます。
- ・生徒たちはロープをたどっていきます(靴を脱いでロープの上を歩かせてもよいでしょう)。
- ・たどりついた先に、スナックや果物などのご褒美を用意しておいてあげましょう。

◎ 話し合しましょう

- ・「ロープをたどっていかなかったら、ご褒美はもらえましたか。」(もらえなかった)
- ・出エジプト記13:21を読みます。
- ・「もしイスラエルの人々が柱に従っていかなかったら、どうなっていたでしょうか。」(迷子になったかもしれない。砂漠で死んでしまったかもしれない)
- ・「このことは私たちに、神さまのご命令に従うことについて何を教えてくださいか(神さまは私たちにとって一番よいことを知っておられる)。それが今日のメッセージです。」

メッセージを一緒に言いましょ

神さまにしたがうことは、

神さまを礼拝するのと同じです。

B

からまっちゃった!

◎ 活動

- ・生徒たちは輪になって立ち、隣の人と手をつなぎます。(大人数のクラスでは、生徒たちを8-10人ほどのグループに分けてください)
- ・生徒たちは、手をつないだまま、適当に周りの人たちの腕の下をくぐっていきます。
- ・みんなの腕がからまったら、生徒たちに、手を離さずに輪を元に戻すよう言います。
- ・自分たちではできない様子だったら、指示を与えてもつれた輪を戻していきます。「かおりちゃん、

右腕を健ちゃんの上にあげて。遼君はゆきちゃんの腕の下をくぐって。」といった具合です。

◎ 話し合いましょう

- ・「どうしてみんなだけでは輪を元に戻せなかったのに、先生はみんなを元に戻せたのだと思いますか。」(先生の方が背が高いから。輪の外にいたから。私たちには見えないものが見えて、私たちにわからないことがわかったから)
- ・エレミヤ33:3を読みます。
- ・「この聖句は、神さまが私たちにくださる指示についてどんなことを教えてくださいか。」(神さまは私たちに見えないものが見え、知らないことを知っておられる。神さまは私たちに一番良いものを知っておられる。神さまの指示は、私たちが「からまってしまう」ことを防いだり、「からまったものをほどく」ためのものである)
- ・「今日のメッセージを一緒に言いましょう。」

メッセージを一緒に言いましょう

神さまにしたがうことは、

神さまを礼拝するのと同じです。

◎ お祈りと賛美(随時)

◎ 交わりの時間

- ・部屋の入り口で生徒たちに聞いた、嬉しかったことや困ったことを(適宜)みんなに話します。生徒たちは、先週の学びを生活の中でどのように体験したかを話します。
- ・お誕生日や特別な出来事、何かをやった成果などを発表します。
- ・ビジターのお友だち全員を温かく歓迎し、一人ひとりの名前を紹介しましょう。

◎ 伝道地便り

- ・子どものための伝道地便りを読みます。
- ・お話のどこに「従順さ」が出てきたか、そしてそれがどのようにして神さまに栄光を表したかを生徒に聞いてみましょう。

◎ 献金 準備: 献金を集めるためのポウル または バスケットかタンバリン

- ・もしタンバリンで献金を集めるなら、こう言ってください。「イスラエルの人たちは、音楽で神さまを礼拝しました。そして神さまが紅海で見せてくださった奇跡を讃えたのです。また、イスラエルの人たちは、神さまの色々な命令に従うことでも、神さまを礼拝しました。」
- ・献金を集めた後、こう聞いてください。「献金を持ってこることも神さまに従っていることになるのは、どうしてですか。」

◎ お祈り

- ・祈りの課題や、イエスさまに感謝をささげたいことを尋ねます。
- ・子どもたちに、神さまが私たちにするようにおっしゃっていることを尋ねましょう。(親切にする。許す。人を助ける。聖書を学ぶ。健康に気をつける。教会に行く。など)
- ・それから、私たちが神さまに従うことができるよう、神さまがおっしゃっていることを喜んで実行できるよう、お祈りしてください。

第6課 あまくなった苦い水

教室の入り口で生徒たちを迎えます。どんな1週間だったか(嬉しかったことや困ったことなど)を尋ねましょう。

「お話の前に」を始めます。

クラスの状況に応じてAかBのどちらかを選んでください。

祈りと讃美は「はじめよう」のあとの、プログラムのどこに取り入れてもかまいません。

A 乾燥したもの 準備: 紙袋、乾燥したもの

(サンドペーパー、綿、砂、未調理の米、ポップコーンなど)

◎ 活動

- ・様々な乾燥したものを、子どもたちに中身が見えないようそれぞれ紙袋に入れて持ってきます。
- ・子どもたちは袋に手を入れ、その感触で、中身が何かを当てていきます。

◎ 話し合しましょう

- ・「これらに共通することはなんですか。」(みんな乾燥している)
- ・「今日のお話には、とてもとても乾燥した場所が出てきます。そこで神さまの民に何が起こったのか、一緒に見ていきましょう。」

メッセージを一緒に言いましょう

私は喜びあふれる讃美をもって、神さまを礼拝します。

B 笑わせて! 準備: 塩辛いスナック(おせんべい、クラッカー、ポップコーン、ピーナッツなど)

◎ 活動

- ・(この活動の目標の一つは、子どもたちを喉が渇いた状態にすることです。そうすることで、聖書のお話がより心にしみることでしょう。)
- ・子どもたちにペアを組ませます。
- ・それぞれのペアは、交代で相手を笑わせます。
- ・笑わせることができたなら、用意された塩辛いスナックを食べることができます。
- ・これを交互に繰り返し、全員が塩辛いスナックを数回ずつ食べるようにします(生徒たちを喉が渇いた状態にさせましょう)。

◎ 話し合しましょう

- ・「笑ったらどんな気持ちになりましたか。いい気持ちになりましたか。」
- ・「その気持ちを表す言葉はなんでしょう。」(楽しい、喜び)

- ・詩編138:1を声に出して読みます。
- ・「神さまを賛美するとどんな気持ちになりますか。」子どもたちの答えを聞きます。
- ・「それが今日のメッセージです。」メッセージを言います。

メッセージを一緒に言いましょう

私は喜びあふれる賛美をもって、神さまを礼拝します。

◎ お祈りと賛美(随時)

◎ 交わりの時間

- ・部屋の入り口で生徒たちに聞いた、嬉しかったことや困ったことを(適宜)みんなに話します。生徒たちは、先週の学びを生活の中でどのように体験したかを話します。
- ・お誕生日や特別な出来事、何かをやった成果などを発表します。
- ・ビジターのお友だち全員を温かく歓迎し、一人ひとりの名前を紹介しましょう。

◎ 伝道地便り

- ・子どものための伝道地便りを読みます。
- ・お話のどこに「喜び」や「喜びあふれる賛美」が出てきたかを生徒に聞いてみましょう。

◎ 献金 準備:コップ

- ・コップで献金を集めた後、こう言ってください。「イスラエル人は、苦い水を飲めるようにしてくださった神さまを褒め称えました。私たちも、神さまのくださったお恵みを感謝して讃えます。そしてその恵みを周りの人に伝えて、その人たちも神さまのを知ることができるようにします。」

◎ お祈り 準備:コップの形の切り抜き(人数分)

- ・「みんなコップの形の切りぬきを持っていますね。これは、神さまがイスラエルの人たちに砂漠で甘い水をくださったお恵みを思い起こさせてくれます。このお恵みは、イスラエルの人たちに多くの喜びをくれました。自分たちに喜びをもたらしてくれるものについて、考えてみてください。」(ペット、家族、友だち、物質的な恵みなど)
- ・「それを、自分のコップに文字や絵でかいてみてください。」
- ・「祈りの輪をつくりましょう。そして、コップにかいたものについて、神さまに感謝をささげましょう。」
- ・希望者全員が祈ったら、教師が最後にお祈りして、祈りの組を終わります。

第7課 神さまの選び

教室の入り口で生徒たちを迎えます。どんな1週間だったか(嬉しかったことや困ったことなど)を尋ねましょう。

「お話の前に」を始めます。

状況に応じてどの活動をするか選んでください。

A

自分の作品

準備: ブロックや工作用粘土など、創作に必要なもの

◎ 活動

- ・子どもたちは、ブロックや工作用粘土などで、神さまのつくられたものを何か創作します。
- ・完成したら、何をつくったかを一人ひとりに発表してもらいます。

◎ 話し合しましょう

- ・「自分のつくったものをどう思いますか。」(気に入っている。よくできたと思う)
- ・「自分のお兄さんや妹や、他のだれかが、これを壊してしまったらどう思いますか。」(怒る。いやな気持ちになる)
- ・「私たちが神さまのつくられたものを壊してしまったら、神さまはどんな気持ちになると思いますか。」
- ・「私たちはこの世界をどうやってダメにしてしまうでしょうか。」
- ・「私たちのからだはどうでしょう。周りの人たちはどうでしょう。」
- ・黙示録14:7を読みます。
- ・「神さまはこの世界に権威を持っておられます。神さまがこの世界を創造されたからです。」
- ・「今日のメッセージを一緒に言いましょう。」

メッセージを一緒に言いましょう

神さまの権威を重んじることは、

神さまを礼拝するのと同じです。

B

私は誰でしょう

準備: 黒板とチョーク または 大きな紙とマーカー

◎ 活動

- ・(大人数のクラスなら、小さなグループに分けると良いでしょう。)

- ・各グループから1人ずつ出て、あなたから言われた言葉を、グループの人にジェスチャーか絵で表します。
 - ・みんなには、その言葉は「私たちを正しい方へ導く役割を持っている人」というカテゴリだと伝えておきます。
 - ・言葉の例は以下の通りです。
- 例：警察官、コーチ、祖父母、両親、学校の先生、友だちの両親、プールの監視員、審判

◎ 話し合しましょう

- ・「私たちはこういった人たちにどうやって尊敬の気持ちを表すでしょうか。」(規則を守る。言われたとおりにする。丁寧な口をきく)
- ・「こういった人たちの権威と神さまの権威は、どんなところが似ていますか。どんなところが違いますか。」
- ・「尊敬の気持ちを表すように言われたらどんな気持ちになりますか。」(強制されているような気持ちになる。尊敬の気持ちを表したい)
- ・「私たちは神さまにどうやって尊敬の気持ちを表すことができるでしょうか。」
- ・黙示録14:7を声に出して読み、子どもたちに繰り返させます。
- ・「今日のメッセージを一緒に言いましょう。」

メッセージを一緒に言いましょう

神さまの権威を重んじることは、
神さまを礼拝するのと同じです。

◎ お祈りと賛美(随時)

◎ 交わりの時間

- ・部屋の入り口で生徒たちに聞いた、嬉しかったことや困ったことを(適宜)みんなに話します。生徒たちは、先週の学びを生活の中でどのように体験したかを話します。
- ・お誕生日や特別な出来事、何かをやった成果などを発表します。
- ・ビジターのお友だち全員を温かく歓迎し、一人ひとりの名前を紹介しましょう。

◎ 伝道地便り

- ・子どものための伝道地便りを読みます。
- ・お話のどこに「権威を重んじる行為」が出てきたかを生徒に聞いてみましょう。

◎ 献金

- ・「私たちは毎週神さまに贈り物を持ってくることで、神さまを宇宙のつくり主として尊敬する気持ちを表します。私たちの贈り物を捧げましょう。」

・献金を集めます。

◎ お祈り

・生徒の1人に詩編95:6、別の生徒にハバクク2:20を読んでもらいます。

・お祈りはどんな体勢でもできるけれど、お祈りと礼拝のときは、神さまの権威に敬意を表すため敬虔な態度でいなければならないことを説明してください。

・みんなで敬虔にひざまずき、神さまと、神さまが権威を与えた人に敬意を表すことができるようお祈りしてください。

第8課 岩から水が？

安息日学校によろこそ

教室の入り口で生徒たちを迎えます。どんな1週間だったか(嬉しかったことや困ったことなど)を尋ねましょう。

「お話の前に」を始めます。

状況に応じてどの活動をするか選んでください

A 椅子を飛び越えよう 準備: 椅子一脚

◎ 活動

- ・部屋の中央に椅子を置き、それを飛び越えたい希望者を募ります。
- ・もしだれもいなければ、こちらから子どもを1人選び、「この椅子を飛び越えるなんて無理だと思いますか。もし先生を信頼してくれたら、助けてあげられます。」と言ってください。
- ・そしてあなたともう1人の大人が子どもの左右につき、その子がジャンプするときに両脇から支えて持ち上げます。
- ・他にやってみたい子がいたら、何度かこれを繰り返します。

◎ 話し合しましょう

- ・「自分だけではこの椅子を飛び越えることはできませんでしたね。でも先生を信頼してくれたら、飛べたのです。」
- ・イザヤ26:4を声に出して読みます。
- ・「この聖句は、神さまは岩だと言っていますが、これはどういう意味でしょう。」(神さまは強いということ、神さまは信頼できるということ、神さまはどこにも行かないということ、など)
- ・「この聖句は私たちに、神さまへの信頼についてどんなことを教えてくださいか。」(神さまは、私たちに神さまのことを永遠に信頼してほしいと思っておられる、神さまは頼ることのできるお方)
- ・「それが今日のメッセージです。」

メッセージを一緒に言いましょう

神さまを信頼することは、神さまを礼拝するのと同じです。

B 信頼して歩く 準備: 障害物用の椅子やテーブルなど、子どもの半数分の目かくし

◎ 活動

- ・椅子やテーブルなどを使って、障害物のあるコースか迷路をつくります。

- ・子どもたちにペアを組ませます。
- ・片方に目かくしをして、まずは手助けなしに障害物のコースを歩かせます。
- ・何回か椅子にぶつかったら、今度はパートナーに方向を指示してもらってもう1度やってみます。
- ・役割を交代してもう1度やります。

◎ 話し合しましょう

- ・「1人で歩くのと、パートナーに助けてもらうのではどちらが歩きやすかったですか。」
- ・「パートナーが正しい指示を出してくれると信じることができましたか。」
- ・「今の活動は、神さまを信頼することと、どんな点が似ているでしょうか。」
- ・箴言3:5、6を声に出して読みます。
- ・「私たちはいつまで神さまを信頼すればよいのでしょうか。」
- ・イザヤ26:4を声に出して読み、それからメッセージを言います。

メッセージを一緒に言いましょ

神さまを信頼することは、神さまを礼拝するのと同じです。

◎ お祈りと賛美(随時)

◎ 交わりの時間

- ・部屋の入り口で生徒たちに聞いた、嬉しかったことや困ったことを(適宜)みんなに話します。生徒たちは、先週の学びを生活の中でどのように体験したかを話します。
- ・お誕生日や特別な出来事、何かをやった成果などを発表します。
- ・ビジターのお友だち全員を温かく歓迎し、一人ひとりの名前を紹介しましょう。

◎ 伝道地便り

- ・子どものための伝道地便りかその他の手に入るお話を読みます。

◎ 献金 準備:大きめの石を入れたバスケット

- ・大きめの石を入れたバスケットで献金を集めます。
- ・「今日のお話には、いつも神さまを信頼することについて教えてくれる、大きな岩が出てきます。私たちは、私たちの世話をしてくれることに感謝して神さまに献金を捧げます。そして、献金をすることで、私たちは神さまを信頼する他の人たちのことも助けることになります。」

◎ お祈り

- ・私たちの信頼に答えてくださる神さまに感謝をささげます。
- ・私たちの必要を満たしてくださる神さまの素晴らしさを感謝しましょう。

第9課 カラスといっしょの朝ごはん

安息日学校によろこそ

教室の入り口で生徒たちを迎えます。どんな1週間だったか(嬉しかったことや困ったことなど)を尋ねましょう。

今週の聖書の学びの中で一番面白かったことを尋ねます。

「お話の前に」を始めます。状況に応じてどの活動をするか選んでください

A

レモンやお菓子か？

準備:切ったレモンを透明ビニール袋に入れたもの、

全員分のお菓子、全員分の目かくし活動

◎ 活動

- ・切ったレモン(またはその他のすっぱい食べ物)を入れたビニール袋と、お菓子を入れた袋を取り出します。
- ・両方を子どもたちに見せ、このどちらかを口に入れるので、先生を信じるようにと伝えます。
- ・子どもたちに目かくしをし、口を開けるように言います。
- ・全員にお菓子を与えます。(緊張感を与えるため、レモンをしぼってその香りをかがせても良いでしょう)

◎ 話し合しましょう

- ・「先生を信頼するのは難しかったですか。」
- ・「先生を信じてよかったですか。」
- ・「神さまを信頼することについて、どんなことを学びましたか。」
- ・ナホム1:7を声に出して読みます。
- ・「この聖句は、今やった活動とどんな点が似ていますか。」(神さまは良いことをなさるお方だということ。私たちは、神さまが最善をご存知だということを信頼しなければならない)
- ・「今日のメッセージはこれです。」

メッセージを一緒に言いましょう

神さまは、私のことを心にかけていてくださいます。

B

交通整理

準備:木の持ち手のついた、両面に「止まれ」と書いてある標識

◎ 活動

- ・子どもたちは交差点の車のように、4本の列をつくります。
- ・1人が、交通整理員として中央に立ちます。

- ・その子がある方向に向けて標識を掲げると、その方向にいる子どもたちは停止します。反対方向の列の子どもたちは、早足で交差点を通り抜け、列の最後につきます。
- ・「交通整理員」は、次にもう一方の方向を向き、今まで流れていた「車線」をストップさせます。この「交通整理員」は、自分の好きなときに方向を変えて交通をコントロールすることができます。
- ・何人かの子どもたちに順番で「交通整理員」にならせてあげましょう。

◎ 話し合しましょう

- ・「このゲームはうまくいきましたか。それはなぜでしょう。」(うまくいった、みんなが言われたとおりに停止したから。うまくいかなかった、きちんと停止しなかった人がいて衝突事故が起こった)
- ・「実際に車を運転しているときに、事故が多く起こらないのはなぜでしょう。」(ほとんどの人が信号を守るから)
- ・「他の人が交通規則を守るということがどうしてわかりますか。」(わかるわけではないけど、みんながそうすると信じている)
- ・「みんなはいつでも周りの人を信じていますか。他の人よりも信頼できる、という相手はいますか。神さまを信頼することについてはどう思いますか。」(周りの人にはがっかりすることがあるけど、神さまにがっかりすることはない)
- ・「私たちは、神さまはいつも私たちのことを心にかけてくださると信じることができます。」
- ・暗唱聖句(「恐れることはない、わたしはあなたと共にいる神。／たじろぐな、わたしはあなたの神。／勢いを与えてあなたを助け／わたしの救いの右の手であなたを支える。」イザヤ41:10)を声に出して言います。
- ・「今日のメッセージはこれです。」

メッセージを一緒に言いましょ

神さまは、私のことを心にかけていてくださいます。

◎ お祈りと賛美(随時)

◎ 交わりの時間

- ・部屋の入り口で生徒たちに聞いた、嬉しかったことや困ったことを(適宜)みんなに話します。生徒たちは、先週の学びを生活の中でどのように体験したかを話します。
- ・お誕生日や特別な出来事、何かをやった成果などを発表します。
- ・ビジターのお友だち全員を温かく歓迎し、一人ひとりの名前を紹介しましょう。

◎ 伝道地便り

- ・子どものための伝道地便りかその他の手に入るお話を読みます。

◎ 献金 準備:鳥の形をした容器 または カラスの飾りをつけたポウル

- ・「鳥の容器」で献金を集め、この献金がエリヤのカラスたちのように誰かの必要を満たすために使

われることを、子どもたちがわかるようにします。

- ・そして、今日の聖書のお話で、エリヤのカラスについてもっと多くのことが学べると伝えてください。

◎ お祈り 準備: ノートと筆記用具

- ・「お祈りの時間」というノートをつくります。見開きの片方のページに「神さまからの恵み」、もう片方のページに「祈りの課題」と書きます。
- ・フィリピ4:19を声に出して読み、子どもたちに、神さまが自分の必要を満たして下さったときのことを話してもらいます。
- ・子どもたちの名前と経験を適当なページに書きます。
- ・それから祈りの課題を尋ねて記録します。
- ・祈りの輪をつくり、子どもたちは自分たちの感謝や願いをお祈りします。

第10課 もう1人分の食べ物

教室の入り口で生徒たちを一人ひとり迎えます。
どんな1週間だったか(嬉しかったことや困ったことなど)を尋ねましょう。
聖書の学びについて何か話したいことがあるかを尋ねます。
「お話の前に」を始めます。状況に応じてどの活動をするか選んでください。



命は尊いもの

準備: 小さな紙コップに水を入れたものを人数分、石、植物、

小さな生き物(小動物や魚など)

◎ 活動

- ・子どもたちに、息を止めるように言います。「だれが一番長く息を止めていられるでしょう。」(気分の悪くなる子どもがいないようにしてください!) 時計で時間を測るか、ゆっくり数を数えます。
- ・「空気無しでどれくらい生きられますか。」(人によって違うけれど3、4分)
- ・子どもたちに水の入ったコップを渡します。「水無しでどれくらい生きられますか。」(数日)
- ・「食べ物無しではどれくらい生きられますか。」(数週間)
- ・石と植物、小さな生き物を見せます。「ここにあるものは、どこが似ていてどこが違いますか。」(植物と動物は生きているけれども石は生きていない)「生きているものとそうでないものはどうやって見分けますか。」(生きているものは、物を食べ、呼吸をし、成長する)
- ・「命は、神さまからタダで与えられた贈り物です。そして、その命を維持するために必要な物も、神さまはタダでくださいます。それは空気、水、太陽、そして食物を育てるための土です。」

◎ 話し合しましょう

- ・I ペトロ5:10(暗唱聖句)を声に出して読みます。
- ・「『完全なもの』とは、どういうものですか。」(欠けたところのないもの。必要なものがすべてそろっているもの)
- ・「神さまはどうやって私たちを完全で力のあるものにしてくださいますか。」(癒しによって。人を通して必要なものを送ることによって。その人の置かれた状況を利用して)
- ・「問題があるとき、まずあなたは何をしますか。」(祈る。そして神さまと一緒に問題を解決しようとする)
- ・「今日のメッセージを聞いてください。」

メッセージを一緒に言いましょ

たとえ悪いことが起こっても、

神さまは私を愛してくださっていることを知っています。

B パンをつくらう

準備: 全粒粉の入った入れ物、塩の入った入れ物、計量カップ、油性ペン、人数分のシールチャック付保存袋

◎ 活動

- ・サレプタのやもめがエリヤにつくってあげたようなパンをつくる準備をします。
- ・全粒粉の入った入れ物と、塩の入れ物と、油性ペンと人数分のシールチャック付保存袋を用意します。
- ・袋には油性ペンでこう書きます。「水小さじ1杯と油小さじ2杯を入れる。袋の中でよく混ぜる。のばすか、たたいて平らにする。きつね色になるまでフライパンかオーブンで焼く。」
- ・子どもたちが粉2分の1カップと塩ひとつまみを保存袋に入れるのを手伝います。
- ・子どもたちはそれを持ち帰って、家でパンをつくります。

◎ 話し合いましょう

- ・「今日は、粉と油がいつまでも無くならなかったというお話と、神さまが問題を解決してくださると信じていた人たちのお話をします。」
- ・詩編37:25を声に出して読みます。
- ・「今日のメッセージはこれです。」

メッセージを一緒に言いましょう

たとえ悪いことが起こっても、
神さまは私を愛してくださっていることを知っています。

◎ お祈りと賛美(随時)

◎ 交わりの時間

- ・部屋の入り口で生徒たちに聞いた、嬉しかったことや困ったことを(適宜)みんなに話します。生徒たちは、先週の学びを生活の中でどのように体験したかを話します。
- ・お誕生日や特別な出来事、何かをやった成果などを発表します。
- ・ビジターのお友だち全員を温かく歓迎し、一人ひとりの名前を紹介しましょう。

◎ 伝道地便り

- ・子どものための伝道地便りかその他の手に入るお話を読みます。

◎ 献金 準備:「あぶら」と書かれたラベルのついたびん

- ・「あぶら」のびんで献金を集めます。
- ・神さまは、今日のお話の中で貧しいやもめに油を与えたのと同じように、私たちにも生きていくために必要な食べ物を買うためのお金を用意してくださることを説明してください。

- ・私たちは、神さまが与えてくださった物を、周りの人を助けるために分け合います。その人たちも、神さまの愛と恵みについて知る必要があるからです。

◎ お祈り 準備:「お祈りの時間」のノート

- ・子どもたちに、みんなでお祈りしたい「悪いこと」があるかを尋ねます。
- ・それから、今週答えられたお祈りや、その他神さまをほめたたえたいことがあるかを尋ねます。
- ・先週から始めた「お祈りの時間」のノートの適当なページに、子どもたちの言ったことを書きます。
- ・神さまがお祈りに答えられたら、その課題のところに星印をつけましょう。
- ・祈りの輪をつくり、神さまの愛と、良いときも悪いときも助けてくださることを賛美します。

第11課 山に下った火

教室の入り口で生徒たちを一人ひとり迎えます。
どんな1週間だったか(嬉しかったことや困ったことなど)を尋ねましょう。
聖書の学びについて何か話したいことがあるかを尋ねます。
「お話の前に」を始めます。状況に応じてどの活動をするか選んでください。

A 「聞こえますよ！」 準備: 紙コップ2つと長い糸 または トランシーバー1組

◎ 活動

- ・あらかじめ、糸電話をつくっておきます。長い糸の端を紙コップの底に取り付け、もう一方の端をもう1つの紙コップの底に付けます。
- ・2人の子どもに紙コップをそれぞれ持たせ、糸がピンと張るくらい遠くに離れてもらいます。
- ・片方の子どもが紙コップの中に話しかけ、もう片方の子どもは耳を当ててその声を聞きます。
- ・声が聞こえたらその子は、「聞こえますよ。どうしましたか」とコップの中に言い返します。
- ・子どもたちは順番に糸電話で話します。
- ・この活動はトランシーバーでもできます。

◎ 話し合しましょう

- ・「誰かに話しかけられたときに、返事をするのが大切なのはなぜですか。」(きちんと聞いているということを表すため)
- ・「もし誰かに話しかけているのに無視されたら、どんな気持ちになりますか。」(イライラする。傷つく。しょんぼりする)
- ・「もし誰かがあなたの言っていることを聞いて助けてくれたら、どんな気持ちになりますか。」(嬉しくなる。いい気持ちになる。ホッとする)
- ・「今日のお話には2人の神さまが出てきます。祈っても助けてくれない神さまと、祈りを聞いて、自分に従う人たちを助けてくれる神さまです。」
- ・「今日のメッセージを言いましょう。」

メッセージを一緒に言いましょう

神さまは、私の祈りに耳を傾け、答えてくださいます。

B どうして聞いてくれないの? 準備: 人数分のぬいぐるみ

(または、全体で1つのぬいぐるみを使ってもよいでしょう)

◎ 活動

- ・「今からぬいぐるみの動物に話しかけてみたいと思います。」子どもたちに順番に話しかけてもらい

ます。

- ・「ではぬいぐるみに、喉が渴いたのでお水を持ってきてくださいと言ってください。」話しかける時間を取ります。
- ・それから、「ぬいぐるみが返事をして言われた通りのことをするか、待ってみましょう。」と言います。
- ・少し時間をとってから聞いてみます。「みんなのぬいぐるみは、返事をして言われたことをしましたか。」(いいえ)
- ・「なぜでしょう。」(生きていないから。聞くことも考えることも、何もすることができないから)

◎ 話し合しましょう

- ・「ぬいぐるみに話しかけて、ぬいぐるみがそれを聞いて何かしてくれるだろうと考えるのは、かしこいことですか。」(いいえ)
- ・「それはなぜですか。」(ぬいぐるみは生きていないから。人の言うことを聞いたり動いたりできないから。ぬいぐるみは人のことを気にすることがないから)
- ・「ぬいぐるみに話しかけて何かしてもらおうとしているとき、どんな気持ちになりましたか。」(ばかばかしい。おかしい感じ)
- ・「もし助けてほしいことがあれば、だれにお願いしたらよいでしょう。」(生きている人。友だちや家族や神さま)
- ・「今の活動は、今日の聖書のお話とメッセージに関係しています。」

メッセージを一緒に言いましょ

神さまは、私の祈りに耳を傾け、答えてくださいます。

◎ お祈りと賛美(随時)

◎ 交わりの時間

- ・部屋の入り口で生徒たちに聞いた、嬉しかったことや困ったことを(適宜)みんなに話します。生徒たちは、先週の学びを生活の中でどのように体験したかを話します。
- ・お誕生日や特別な出来事、何かをやった成果などを発表します。
- ・ビジターのお友だち全員を温かく歓迎し、一人ひとりの名前を紹介しましょう。

◎ 伝道地便り

- ・子どものための伝道地便りかその他の手に入るお話を読みます。

◎ 献金 準備: 今期の伝道地を表すような献金入れ

- ・「私たちは、世界中の人たちの声を(どんな言語でも)お聞きになる神さまに仕えています。神さまは世界中の人のことを気にかけているのです。そして、私たちにも、その人たちのことを気にかけて、耳を傾けてほしいと思っておられます。そのために私たちができることのの一つが、安息日学校に献

金を持ってきて捧げることです。」

- ・献金を集めます。

◎ お祈り 準備:聖書

- ・詩編4:4を自分で読むか、子どもに読んでもらいます。
- ・子どもたちに、神さまがお祈りに答えてくださった時のことを話してもらいます。
- ・みんなのお祈りのノートか黒板に、祈りの課題を書き入れます。
- ・希望する生徒たちに、祈りの課題を割り振ります。
- ・輪をつくり、手をつないでお祈りします。

第12課 やさしくささやく神さまのみ声

教室の入り口で生徒たちを一人ひとり迎えます。
どんな1週間だったか(嬉しかったことや困ったことなど)を尋ねましょう。
聖書の学びについて何か話したいことがあるかを尋ねます。
「お話の前に」を始めます。状況に応じてどの活動をするか選んでください。

A ささやき声で

◎ 活動

- ・入り口で子どもたちを迎えるときからずっと、ささやき声で話してください。子どもたちも自然とささやき声で答えるでしょう。
- ・そのうちだれかが、「どうしてひそひそ声で話してるの?」と聞いてくることでしょう。
- ・もしだれもそう言ってこなかったら、あなたがその質問をしてください。

◎ 話し合しましょう

- ・「誰かがささやき声で話していたら、どんなことが起こりますか。」(周りの人もひそひそ声で話す。周りの人は注意して聞くようになる。声が聞こえるように静かにしないといけない)
- ・「神さまは私たちに、ささやき声で話しかけられます。」
- ・イザヤ30:21を声に出して読みます。
- ・「神さまは私たちにどのように話しかけられますか。」(自然を通して。聖書を通して。色々な状況を通して。私たちの思いを通して。神さまを愛する人を通して)
- ・「みんなは神さまの声を『聴く』時間を取っていますか。」みんなの答えを聞きます。
- ・「今日のメッセージを言いましょう。」

メッセージを一緒に言いましょう

私は、神さまのささやかれるみ声に耳をかたむけます。

B 貝がらの音 準備: 貝がらか、コップか、ボウルなどの、丸いもの

◎ 活動

- ・子どもたちに貝がらを渡して、その中の音を聞かせます。(コップやボウルなど、丸みを帯びたものであれば同じ音を聞くことができます。豆知識: その音は本当は、頭の中を流れている血液の音です)
- ・全員に順番に音を聞かせます。

◎ 話し合しましょう

- ・「貝がらの音と神さまの声は、どんなところが似ていますか。」(とても静かな音(声)だということ、よく注意しないと聞こえないところ、貝がらの音は貝の内側から聞こえてくる、神さまは私たちの内側に語りかける、など)
- ・イザヤ30:21を声に出して読みます。
- ・「神さまが話しかけておられるかどうか、どうやったらわかりますか。」(神さまは、自分の命じておられることや聖書に書かれていることに反することは、決してお命じにならない。神さまは、誰かを傷つけるようなことや、愛情のないことをするようには、決してお命じにならない)
- ・「私たちはどんなとき神さまの声に耳を傾ける必要があるでしょうか。」子どもたちの答えを聞きます。
- ・「今日のメッセージを言いましょう。」

メッセージを一緒に言いましょう

私は、神さまのささやかれるみ声に耳をかたむけます。

◎ お祈りと賛美(随時)

◎ 交わりの時間

- ・部屋の入り口で生徒たちに聞いた、嬉しかったことや困ったことを(適宜)みんなに話します。生徒たちは、先週の学びを生活の中でどのように体験したかを話します。
- ・お誕生日や特別な出来事、何かをやった成果などを発表します。
- ・ビジターのお友だち全員を温かく歓迎し、一人ひとりの名前を紹介しましょう。

◎ 伝道地便り

- ・子どものための伝道地便りかその他の手に入るお話を読みます。

◎ 献金 準備: 今期の伝道地を表すような献金入れ

- ・献金を集めながら、今期の伝道地の人たちがどうやったら神さまの優しい愛のささやき声を聞くことができるか、子どもたちに聞いてみましょう。(キリスト教のラジオやテレビ番組を通して、説教を聞くことを通して、聖書を読むことで、クリスチャンの友人を通して、など)
- ・この献金がその目的のために使われるよう祈りましょう。

◎ お祈り

- ・子どもたちに、難しい決断を迫られている人はいないか尋ねます。
- ・進んで話してくれる子がいたら、その問題を話してもらいます。
- ・一緒にその問題について祈ります。

第13課 そしていなくなった

教室の入り口で生徒たちを一人ひとり迎えます。
どんな1週間だったか(嬉しかったことや困ったことなど)を尋ねましょう。
聖書の学びについて何か話したいことがあるかを尋ねます。
「お話の前に」を始めます。状況に応じてどの活動をするか選んでください。

A 永遠ってどういうこと? 準備:石、小さな絵筆 または とても柔らかい布

◎ 活動

- ・こぶし大の石と、小さな絵筆かとても柔らかい布を生徒に見せます。
- ・一番手前の子どもに、石を絵筆で1度なでさせます。
- ・それから10年経ったことにして、次の子どもにまた石をなでさせます。
- ・そうやって子どもたちに石を回していき、その度に10年ずつ経っていることにします。
- ・石がすり減るのにどれくらいかかるか尋ねましょう。
- ・永遠というのはそれよりもさらに長い時間のことだと説明してください。

◎ 話し合しましょう

- ・ローマ6:23を声に出して読みます。
- ・「神さまは私たちに永遠の命を与えたいと思っておられます。私たちはそれをもらうために何をしたらよいのでしょうか。」(ください、とお願いする)
- ・「永遠に生きることにどう思いますか。」
- ・今日のメッセージを言います。

メッセージを一緒に言いましょ

永遠の命は、神さまからの贈り物です。

B 何年あるでしょう 準備:とても長いひも、メジャーか物差し

◎ 活動

- ・とても長いひもを用意します。
- ・50センチか1メートルごとに、生徒の人数分の印をつけます。
- ・子どもたちに印を見つけてそこを持つように言います。子どもたちはひもをしっかり持ってピンと張ります。
- ・印と印の間は100年を表すということにしましょう。(全員が印を持っても印のついていない部分がたくさん残るくらいの、長い長いひもを用意してください)

◎ 話し合しましょう

- ・「永遠というのは、このひもよりもずっと長い期間のことです。そしてみんながこのひもを持っているように、神さまの愛は私たちを永遠に神さまに結び付けてくださるのです。」
- ・詩編23:6を読みます。
- ・「親せきやペットが死んでしまったという人はいますか。」
- ・「天国では、大好きな人たちもペットも決して死なずに一緒にいられます。その様子を想像してみてください。どんな気持ちになりますか。」(うれしい。安心する)
- ・「神さまから天国での永遠の命をいただくには、あなたは何をしなければなりませんか。」(イエスさまを自分の救い主として受け入れることで、神さまからの永遠の命という贈り物を受け取らなければならない。この贈り物を自分で勝ち取ることはできない。私たちがこの地上で神さまのために生きるとき、神さまが、この贈り物を感謝する気持ちを表すお手伝いをしてくださる)
- ・「今日のメッセージを言いましょう。」

メッセージを一緒に言いましょう

永遠の命は、神さまからの贈り物です。

◎ お祈りと賛美(随時)

◎ 交わりの時間

- ・部屋の入り口で生徒たちに聞いた、嬉しかったことや困ったことを(適宜)みんなに話します。生徒たちは、先週の学びを生活の中でどのように体験したかを話します。
- ・お誕生日や特別な出来事、何かをやった成果などを発表します。
- ・ビジターのお友だち全員を温かく歓迎し、一人ひとりの名前を紹介しましょう。

◎ 伝道地便り

- ・子どものための伝道地便りかその他の手に入るお話を讀みます。

◎ 献金 準備:「ヨハネ3:16」とかかれたバスケットかボウル

- ・献金を集める前に、ヨハネ3:16を讀んで生徒たちに繰り返させます。
- ・「神さまは私たちを罪から救うために、イエスさまをこの世にくださいました。私たちが永遠の命を得られるようにするためです。私たちは他の人たちも神さまについて知り、救われて永遠に生きることができるように、献金を捧げます。これは、神さまの贈り物へのお返しなのです。」

◎ お祈り 準備:赤か黄色かオレンジの工作用紙にかかれた、

馬と戦車の切り抜きを人数分(型紙は135ページ参照)

- ・子どもたちは、馬と戦車の切り抜きに、まだ神さまのことを知らない人の名前を書きます。
- ・何人かずつ前に出て(少人数のクラスでは、1人ずつ出てきてください)、自分が名前を書いた人が神さまを受け入れ、天国に行って永遠に生きることができるよう祈ります。アシスタントが必要に

応じて手助けします。

・最後に教師が、生徒たちの特別な祈りの課題をお祈りします。